

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	中津川市	学校名	岐阜県立中津高等学校		
校長名	瀬瀬康雄	対象学年	全校・3年生	人数	人
活動名	【A】馬籠観光ボランティア 【B】地域史研究	時間数	【A】全校 【B】3年	継続年数	【A】3年 【B】1年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [ ] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [ ] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [藤村記念館、旭ヶ丘公園] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [ ] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [観光案内所、店での通訳・案内] 6 その他（ ） [ ]				
複数年継続するための工夫改善	<p>【A】・ALTによる英会話レッスンや、本校生徒のための英会話テキストを作成し、積極的に外国人と関わる自信と実力をつけることに努めた。</p> <p>・事前学習では、文学・経済・英語の各グループに分かれ、調べ学習をしたりプレゼンテーションをしたりすることにより、主体的な取り組みができています。</p> <p>【B】・座学だけでなく、フィールドワークを通して、実際の様子を自らの目で確かめると共に、課題を見つけ行動していくことで、地域を愛する心を持った人物へと成長するような授業を展開した。</p> <p>・活動したことを文化祭やボランティア活動において発表することを通して、受講していない生徒にもその存在と地域を愛する心の大切さを説いた。</p>				
1 ねらい	<p>【A】・地元の観光地を深く知り、郷土愛を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人と実際に会話することで、英語力、コミュニケーション力を高める。</li> <li>・中山道や島崎藤村について知ることで、地域の歴史や文学への理解を深める。</li> <li>・馬籠で暮らす人々との交流を深め、地域活性化の方策を考える。</li> </ul> <p>【B】地域の身近な歴史を学ぶことで、歴史への興味・関心を深め、歴史的思考力を養うと共に、地域活性化の実現に向けて考察し、それを実践する。</p>				
2 活動の概要	<p>【A】・観光案内所や商店で、外国人観光客に英語で対応したり、地元の方々との橋渡しとして通訳を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤村記念館で日本人には日本語で、外国人には英語で対応した。</li> </ul> <p>【B】・中津川市や中山道中津宿についての歴史と現状を主観的に取り扱った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記について、身近な資料やインターネットを使い、調べ学習や集団討論を行い、自らが住む地域についての現状や課題を主体的に探った。</li> <li>・フィールドワークを行うことで、自らの地域についての認識を深めると共にその魅力を外部に発信した。</li> </ul>				

### 3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子



- 【A】・外国人にわかりやすいように、商店のポップを作成したり、店員用の英会話テキストを作成した。
- ・藤村記念館で高校生がガイドすることで、観光客がたいへん喜んでくれた。
- 【B】・文化祭で「地域史研究コーナー」としてブースを設け、地域について学んだことを写真と解説で展示した。

- ・地元の旭ヶ丘公園の魅力を、地域の小学生にクイズを用いながらフィールドワークで伝えた。長期的な地域活性化を見据え、小学生をターゲットに絞り実施した。
- ・旭ヶ丘公園や中津川の歴史・民話についての紙芝居を作成し地域の保育園で読み聞かせを行った。



### 4 活動を通しての児童生徒の変容

- 【A】事前に自分たちで現地へ行ってリサーチしたり、「浴衣で接客したら外国人の方が喜んでくれるのではないか」という提案があったり、期待以上に主体的な取り組みができた。その自信からか、個人的に馬籠でフィールドワークをした生徒もいた。
- 【B】フィールドワークなど実践的な学習を通して、地域を愛する気持ちが次第に喚起されていく様子が伝わってきた。以下のような感想をもったことから、このことが証明できるのではないかと。  
「授業で学んで終わりではなく、学んだことを人に伝えることで、自分の知識と理解を深めることができ、楽しかったです。私は地域史研究の授業を通して知らなかったことを多く学ぶことができ、より中津川のことを好きになりました。中津川市はとても魅力的な街だと思います。自分の中にこの情報を留めるのではなく、より多くの人に自ら発信していきたいです。」